

## 第 2 回 南小国町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 議事録

期 日 平成 24 年 11 月 15 日（木） 15:00～17:10  
場 所 南小国町地域福祉センター りんどう荘 研修室  
出 席 者 策定委員 17 名、事務局 8 名  
欠 席 者 策定委員 3 名（松崎 陽志郎 氏、蓮田 逸子 氏、辻 龍也 氏）  
事 務 局 【南小国町町民課】  
（課長）秋吉 又夫（班長）橋本 晶子（主事）田北 雅昭  
【南小国町社会福祉協議会】  
（局長）藤堂 伸二（次長）加賀 孝之  
（活動専門員）佐藤 新一郎（事務局員）田中 良和  
【協力】ひとちいき計画ネットワーク 佐伯 謙介 氏

まず資料の確認をする。全員の手元に資料が行き届いていることを確認後、南小国町町民課長より、開会を宣言する。その後、井野正嗣委員長挨拶。引き続き、議長として議事進行を行う。

議 事 第 1 号「これまでの取組等について（ふくし座談会の成果報告等）」  
第 2 号「計画書の構想（案）について」  
第 3 号「今後の検討課題について」  
第 4 号「その他・意見交換等」

議 長 早速議事に入ります。第 1 号について、佐伯先生より説明をお願いします。  
佐 伯 （第 1 号 これまでの取組等について（ふくし座談会の成果報告等）説明する。）（26 分）  
議 長 第 2 号について、佐藤君より説明をお願いします。  
佐 藤 （第 2 号 計画書の構想（案）について説明する。）（26 分）  
議 長 第 3 号について、田北君より説明をお願いします。  
田 北 （第 3 号 今後の検討課題について説明する。）（21 分）

議 長 ありがとうございます。第 1 号から第 3 号の説明が終わりました。ここからは皆様の意見を頂戴しまして、参考資料として計画書に反映させて行きたいと思います。現在私は市原町に住んでおり、本日は市原町総代もお見えですが、実際この資料の内容を見てみると、5 月 7 日より様々な活動をして来られているのが分かります。比べて、私は何も活動をしていなかった分、多少分かり兼ねる部分はあります。しかし、それを踏まえた上で、皆様からご意見を賜り、これから私も活動をして行こうと考えていますので、是非皆様の忌憚りの無い意見を頂戴したいと思います。

加 賀 誠 今説明を受けて、一先ず整備が必要だと思ったのは、一人暮らしの高齢者の「見守りシステム」を整備する必要があると感じました。買い物や通院をする際の移動手段として、公共の乗り物等ではなく、更に肌理の細かい「お助けシステム」の整備、加えて地区防災に関しては急務で整備をしなければならないと思います。見守りに関しては、資料に福祉協力員と福祉推進委員とありますが、先日愛媛県久万高原町より民生委員が来られまして、この町は人口が約 9,000 人に対し、民生委員が 65

名、ここは人口約4,400人に対し12名、以前鹿児島を訪問した時も民生委員が多かったのですが、これは如何に南小国町の民生委員が格段に少ないかを物語っています。今日は議員さんもいらしているので、検討してもらいたい部分ではありますが、もう少し民生委員が多ければ、このような福祉協力員等は要らない訳です。如何せん現在12名しかいないものですから、広い範囲を一人の民生委員が受け持っている状況です。これではなかなか難しい部分があります。この件については、検討をお願いしたいと思います。次に買い物・通院等に関するお助けシステムについてですが、今運行している乗り合いバス等はバス停まで行かないと乗れない、時間が限定的という点、他地区では通院等はシルバー人材センター等もあり、そういったシステム作りをしないといけないと思います。

議 長 只今、加賀さんより一人暮らしの老人のことと、買い物・通院サポートのこと、民生委員の少なさについて意見が出されました。勿論、この件に関しては今から考えて取組んでいくものとは思いますが、なにか皆様から意見があれば頂戴したいと思います。

齊 藤 加賀さんの意見に関連してですが、私もやはり今の民生委員の少なさでは、福祉協力員等の設置は必要だと感じます。

(地元・里組で実際遭った、地域福祉に関する体験談を話す。)いくら地元の間人と雖も、どこまで踏み込んで良いかが分からない部分があります。

加 賀 誠 やはり小さい(地区)単位での、福祉協力員のような人材は必要だと思う。

議 長 民生委員の協力員と、福祉協力員という立場ではいけないのですか。

加 賀 誠 それは、作れば良いのではないのでしょうか。実際、民生委員を増やすというのはとても難しいことです。ですので、そういう(福祉協力員のような)人材を確保しないと、当面の対応は厳しいのではないかと思います。

齊 藤 今からはそのような事例が増えてくると思います。

加 賀 誠 買い物サポートもそうですが、500~600円の買い物をするのに、タクシーに1,000円以上払って行くのは大変なことです。現在そのような人は沢山います。そういった部分で始点を作る必要があると思うし、時にはマイクロバス等で買い物バスといったようなものも良いのではないのでしょうか。

議 長 確かに、以前は移動販売車等も廻って来ていましたが、今はめっきり見なくなりました。

加 賀 誠 施設への移動手段のマイクロバスはよく見かけますが…。

松 崎 俊 九産交のバスについてですが、バスの時間帯の見直しが必要だと思います。ぐるっとバスにしても時間が悪いです。行く時はあっても、帰りが無いという状況です。確かに運行路線は更に増え、それは良いことだと思います。ただ、待っている客がいないのです。公共バスが空気を運んではなりません。結局は使いにくい訳です。若い人に送迎は頼みづらいところがありますし、やはり弱者を救わないといけないです。

議 長 買い物難民についてご意見を頂いております。当然、何らかの形で対応はしないとけないと思いますが、これは一応行政・社協に申し入れをしておきます。何らかの形で対応をして欲しいと思います。

嶋 崎 町で小国町とともに、公共交通会議というものを設置しております。流石に一人一人の方に時間を合わせるというのは当然無理ですが、全体的にどの時間がベストなのかというアンケートを取り、それに合わせるということは出来ないこともないと思います。

松 崎 俊 市原町内に住んでいる人は良いとして、奥に住んでいる人への配慮が必要です。

- 加賀 誠 そのようなボランティアシステムを作ることが必要ではないでしょうか。
- 佐伯 そういった乗り合いタクシー等の話は、公共交通会議等で改善をしてもらおうとして、地域福祉ではお手伝いの仕組み作りを行い、負担を軽減していきたいと考えています。それを気持ちだけでなく、財政的に出来るのかどうかというところです。合志の方では、利用者が負担する以上のものを、社協や行政が若干加えてお手伝いしてくれている方に渡しています。
- それから、福祉協力員も費用弁償くらいは必要ではないかと。しっかりとした研修を受けさせるという意味で、年に何回かの研修費として費用弁償を用意したり、或いはジャンパーや襪・ユニフォームを用意したりするなどですね。
- 例えば一地区 30 人の推進員に年 2 回の研修会を受講させるとして、年に 60 人×1,000 円の 60,000 円の費用弁償を財政から工面出来るかどうかという部分です。
- 加賀 誠 民生委員は基本的に無報酬ですがね。
- 佐伯 ただ費用弁償くらいは、どうにかありませんかね。
- 石橋 しかし、ここでどれだけ議論を繰り広げてても仕方ないのです。何故なら、地域の人達がそういった声を発していかないといけないからです。私は中原ですが、常会が基本は地域を引っ張っています。常会長が住民を集め、先導していかないと、上が勝手に決めても下が付いてこないなら駄目なのです。常会長は各部落の寄り合い開催の招集権があります。そういった末端の部分で話し合いを行っていかなければいけません。それに対して町が援助をすると。例えば常会長は二年交替ですから、常会長が世話人を指定することで、向こう二年間は地域の世話人が出来るという訳です。
- 議長 今石橋さんから中原方面の話が出ています。本日は町より総務班長がお出でですが、今他所の地区でも総務班の努力で常会という自治組織を作ろうとしています。もしそれが出来れば、他所の地区も中原同様のことが出来るかもしれません。
- 加賀 誠 現段階では少し難しいですね。本日中原区長がお出でではありますが、中原のように常会が出来て、各組が綺麗に整備されていれば良いですが、折角ここまで策が出来ている訳だから、実行しないことにはどうしようもないですよ。
- 議長 現在 10 箇所程度でふくし座談会を開催されたそうですが、それ以外の未実施地区の状況はどのようになっていますか。
- 佐藤 今年度中に黒川、市原の 2 箇所での開催を考えております。
- 佐伯 2 年で 30 箇所を廻るというのは、とてもハードです。
- 佐藤 今回は 2 回座談会を行うということで、職員も対応に追われております。
- 佐伯 ただ回数を重ねる事で参加しているスタッフも段々慣れてくるので、話の組み立て方の引出しが増え、コーディネートの仕方というのが身に付いてきています。
- 石橋 私が中原を全地区帯同させてもらった経験からすると、若い人が少なく、お年寄りの方が多い、それも女性が殆どです。地域社会において、その層の人間を考えないといけない人間が来ないと、地域社会の話は出来ない。廻って見て実感しました。この座談会は地域の現状を知る上ではとても効果的です。しかし、組長の認識が甘く、(座談会開催の)連絡があったから、ただ連絡をするだけといったような中原の状況でした。
- 鞭馬 私達も当初座談会開催の通知が来た時は、漠然としたイメージでした。この座談会というのは、男が行けば良いという意識付けがあり、婦人会が行くとなって呼び掛けをして

も、その趣旨が分からないのでなかなか集まりませんでした。

2回目は1回目参加者からの口コミで参加者が増えました。座談会の効果として、例えば、次は地域で勉強会等をしようとなった時、いかに婦人会や消防、老人会等といったネットワーク作りが大切であるかを学びました。如何に座談会が無駄ではないということが分かってもらえると思います。中原区長の仰る様に、日頃からの地域の人の声掛けもすごく重要だと思います。

石 橋 地域の認識としては、地域を見つめなおす良い機会であると、これだけははっきりと言えます。ただ敢えて希望を言うなら、全員やはり参加すべきである。

松 崎 俊 ただ今はこういう時代なので、期間的には長くても5年のスパンですね。そういった状況の中で発案・アイデア等が無ければ置いていかれる時代だと思います。

子どもは近くにいない、有事の際連絡も取れないという時代背景で、もう家族皆で食卓を囲むといった時代は終わった訳だから、やはり3~5年程度のスパンで計画を策定しないと、本当に置いていかれるものだと思いますね。

佐 伯 議員の高橋周二さんも座談会に何度か参加されました。是非意見を頂きたいのですが。  
高 橋 私自身も座談会に参加させて頂いた上で、今回非常に良い資料が出来上がっているものだと思います。そういった中で課題等も上がってきておりますが、これには優先順位を付けてやっていかねばならないと思っております。実際参加された方々はご理解されたかと思いますが、如何にこの座談会が重要な場であったか、そしてここで得た熱を他の人に伝えてもらい、より多くの参加者を呼んで頂き、その中で自分の置かれている立場・役割を把握することが出来ること、更に町は何をすべきか、社協は何をすべきなのかという役割が明確になったと思うので、私自身からしてもとても大切な座談会であったと痛感しましたし、続けていくべきであると思いました。

加 賀 誠 最終的には条例規則等、何かしら約束事は必要になってくるから、今日は議員・総務課長もいらしているので、皆様にそれを認識してもらい進めるしかないと思います。

石 橋 若い人達は、それよりも自分達の生活が優先となりがちだが、そういった考えでは、ここでは成り立たないということを分かってもらわないといけない。

佐 伯 矢津田さんも座談会に参加されていましたが、どうしても現状座談会を開催すると年寄りの方の話に片寄りがちですが、子育てという観点から、なにかご意見を頂戴したいと思います。

矢 津 田 馬場地区では若手もいましたので、そういった話も勿論出てきました。やはり上下の繋がりが欲しいといった中で、防火訓練にしても、子どもも巻き込んで一緒にやる等、地域住民全員を巻き込んだ福祉整備をしていくべきなのではないかという意見が当地区では出ている様でした。

加 賀 誠 本当は皆一つにならないといけないのに、どうしても年寄りは年寄りだけとなってしまいますよね。

藤 堂 若い世代、40代から50代も生活が大変だということもありますが、地区で生活する中で、このままではいけないという気持ちはあると思います。ただ、そう思う中でどうしたらいいのかという具体策が出てこないものですから、そう思うだけで、その気持ちが消えていってしまうというのが現状だと思います。

そういった時にこの地区はこのような現状ですので、どういった解決策で乗り切ってい

きましようと座談会を通して、或いは町や社協がお手伝いをして、具体策に繋げていければ、もっと違った展開になるのではないかという風には思っています。

井 大字満願寺は未実施なもので、終わった地区は今までのような見解が出来ると思うのですが、(未実施地区としては)ここでの具体策をどれか一つ、初めの一步として、実行に移してもらいたいという気持ちではありますが。

議 長 当然、働きかけて参ります。

穴 井 公 各地区を巡って、様々な課題が出ております。やはり一つずつ解決していくのが一番だと思います。

あと、委員の方々が今回も地域の代表等ということで、お出ででおられますが、この策定委員の選出に関しても、もう少し若い方或いは多種多様な考えの持ち主の方を策定委員に選出するのも良いかと思えます。

場合によっては、委員を分けてでも、このグループはこの課題に取り組む等していても良いのではないかと考えています。

議 長 様々な課題を持って、何人かで対応していくということでしょうか。

穴 井 公 まあそういったところです。

長 谷 部 未実施地区で、小さな単位ではなく、大きな単位では座談会はやれないのでしょうか。

加 賀 孝 小さな行政区を基本線でやっていっていますので…。

長 谷 部 臨機応変に開催してください。

佐 藤 地区の人から話をお伺いして、こういったまとめりでした方が、話がまとめり易いということもありますので。

加 賀 孝 おこがましいですが、意識をもう少し高く持って頂き、参加してもらおうと有難いですが、どうしても、蓋を開けると人数が少ない等ありますので、地道にやっていくしかないと思っております。

長 谷 部 実施地区と未実施地区では、明らかに温度差があります。だから、もう少しまとめて出来ないのかと言っている訳です。

佐 伯 ただ丁寧にやっているからこそ、このような白熱した議論が交わせると思いますし、なんとなく集まればいいかなというものではないかと思えます。

議 長 間もなく閉会となりますが、まだ一言も意見を言っていない方で意見を言いたい方、おられませんか。是非ともこの機会に言って頂きたいですが。

穴 井 一 これだけ意見が出るということは、進捗状況としては、良い方向に向かっているということではないでしょうか。終わってないところは別にして。

椋 野 もしこちらでも必要なことがあれば、是非声をかけて頂きたいと思っております。

穴 井 博 町としても、自主防災組織の再編にあたって、このような意見というのは当然取り入れないといけないと思っております。今後の検討課題にもありました、職員が今後どのように町民と連携をとっていくか、今各地区の自主防災組織担当ということで職員を配置しており、当然その職員はその地区の活動に携わっていく訳ですが、それ以外の部分、福祉等といった部分でどう連携を取っていくのかということところが重要だと考えています。

後 藤 りんどう荘の送迎車が、もっと有効に使えたら良いと思えます。

平 野 地域住民の自らの意識を向上させないといけないと感じました。この座談会に参加されることで更に意識が向上するのではないかと思えます。参加されないことには、意識も

向上しないし、意義も分からない。役割分担されて、自分がその役になるとなんらかの目を向けていくとは思いますが、それが無いとこのままではいけないという思いはありますが、どうして良いか分からない状態ということになると思うので、普段からやはり何らかの形で動いていくことが大切なのだと思います。

議 長 様々な意見を頂きまして、どれ一つ今すぐこれを実行しますということには出来ない訳ですが、これからまた継続的にこの話を続けながら、一つでも皆様のお役に立てるような会合にしていきたいと思います。

これを持ちまして、第 2 回 南小国町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会を閉会致します。

意見交換 約 51 分

<了>

**南小国町第三次地域福祉計画・第一次地域福祉活動計画  
策定委員・事務局員名簿**

	氏 名	勤 務 先 ・ 所 属	役 職 ・ 備 考
1	井 野 正 嗣	町議会議員	総務文教委員長
2	高 橋 周 二	町議会議員	総務文教副委員長
3	松 崎 俊 光	大字赤馬場区長	
4	井 洋 一	大字満願寺区長	
5	石 橋 三 幸	大字中原区長	
6	松 崎 陽 志 郎	教育委員	委員長
7	後 藤 辰 子	教育委員	
8	齊 藤 加 代 子	ボランティア連絡協議会	会長
9	加 賀 誠 一	民生委員児童委員協議会	会長
10	鞭 馬 志 津 子	連合婦人会	会長
11	長 谷 部 富 貴 子	連合婦人会	副会長
12	穴 井 公 明	老人クラブ連合会	事務局長
13	蓮 田 逸 子	特別養護老人ホーム悠清苑	施設長
14	穴 井 一 之	グループホーム森園	施設長
15	椋 野 正 信	サポートセンター悠愛	副施設長
16	辻 龍 也	蓮田医院	院長
17	矢 津 田 ち と せ	子育て支援広場ぬくもり	
18	平 野 た か 子	地域包括支援センター	社会福祉士
19	嶋 崎 俊 秀	行政（総務課）	総務課長
20	穴 井 博 文	行政（防災担当）	総務班長

	氏 名	勤 務 先 ・ 所 属	役 職 ・ 備 考
1	秋 吉 又 夫	役場町民課	課長
2	橋 本 晶 子	役場町民課福祉児童班	班長
3	田 北 雅 昭	役場町民課福祉児童班	主事
4	藤 堂 伸 二	社会福祉協議会事務局	事務局長
5	加 賀 孝 之	社会福祉協議会事務局	事務局次長
6	佐 藤 新 一 郎	社会福祉協議会事務局	地域福祉活動専門員
7	田 中 良 和	社会福祉協議会事務局	事務局員
協力	佐 伯 謙 介	ひとちいき計画ネットワーク	代表取締役